	切上業局∜	専門学	校	開講年度	令和04年度(2	2022年度)	授	業科目 5	まちづく	り・防災機	犹論
	礎情報				1		1			- 1,00 41	
科目番号		V301	 8			科目区分		専門 / 必修			
授業形態						単位の種別と単	 位数	履修単位: 1			
開設学科		111111	両我 SD まちづくり・防災コース			対象学年	11.3/	3	-		
開設期		前期		週時間数 2							
教科書/教	数別書・プロットを配布する他 哲学内で適宜										
担当教員				L めぐみ							
到達目		'	,								
1. 土木	・建築分野 ・建築分野	に関連する	5様々な	し、概要を説 業種と、各業 し、それに向	明できる。 種の関連性を理解し けて、今、身につけ	、説明できる。 るべき知識や経験	すべき	事柄を明確に	こする。		
ルーブ	リック										
			理	想的な到達し	標準的な到達レベルの目		安	未到達レベルの目安			
土木・建築分野の基礎知識			説	木・建築分野 胡できる。	土木・建築分野の基礎知識を説明 できる。		土木・建築分野の基礎知識につい て説明できない。				
土木・建築分野に関連する様々な 業種と、各業種の関連性			スな 業 て	木・建築分野 種と、各業種 て説明できる		木・建築分野に関連する様々な 種と、各業種の関連性を説明で る。			土木・建築分野に関連する様々な 業種と、各業種の関連性を説明で きない。		
自分のキャリアビジョンの具体化				分のキャリア 、それに向け らべき知識や経 ほに説明できる	し、それに向け	ャリアビジョンを具体化 こ向けて、今、身につけ 哉や経験すべき事柄をお できる。		自分のキャリアビジョンが具体 できておらず、今、身につける き知識や経験すべき事柄が説明 きない。		につけるべ	
学科の	到達目標耳	項目との	関係								
学習・教	育到達目標	(C)									
教育方	法等										
土木・概要		建築分野 ₹来ポー 経験すべる	皇築分野の基礎知識を学ぶとともに、土木・建築分野に関連する様々な業種と、各業種の関連性を理解する。 ま ジボートフォリオの作成を通して、自分のキャリアビジョンを具体化し、それに向けて、今、身につけるべき気 食すべき事柄を明確にする。							解する。 ま けるべき知	
授業の進め方・方法 々の関え 			聞わりに。 とより明確	自分の将来の働く姿を具体化する未来ポートフォリオを作成する。講義内では、土木・建築に関わる社会的なフスを題材として、土木・建築分野の基礎知識を学ぶとともに、その建設系プロジェクトがどのような業種の人のりによって実現しているかを、横軸(関係的広がり)・縦軸(時間軸)から説明する。これにより、自分の将こり明確にするとともに、将来に向けて自分がこれからやるべきことを具体化する。最後に、授業の内容を踏まてり具体的な未来ポートフォリオを再度作成する。							
		えて、	より具化	体的な未来ポー	もに、将来に向けて -トフォリオを再度	自分がこれからや 作成する。	るべき	ことを具体化	ばする。最初	後に、授業の 	内谷を踏ま
 注意点		· 試懸 評価 3	<u>より具(</u> 食の成績(「る。学!	体的な未来ポ 60%, 未来ポ 期末の成績は	もに、将来に向けて ートフォリオを再度 ートフォリオ20%, ,中間と期末の各期 等において評価する	作成する。 平素の学習状況等 間の評価の平均と	: (授業	レポート等)	20%の割	合を基準とし	
	属性・履何	・試験評価を目標に	より具(食の成績(する。学! ニ対する)	体的な未来ポ 60%, 未来ポ 期末の成績は	トフォリオを再度 トフォリオ20%, - 中間と期末の各期	作成する。 平素の学習状況等 間の評価の平均と	: (授業	レポート等)	20%の割	合を基準とし	
授業の	<u>属性・履信</u>	・試験 評価で 目標に	より具(検の成績(する。学り 対する) ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	体的な未来ポ 60%, 未来ポ 期末の成績は	トフォリオを再度 トフォリオ20%, - 中間と期末の各期	作成する。 平素の学習状況等 間の評価の平均と	手(授業 する。 <u>‡</u>	レポート等)	20%の害つけるべ	合を基準とし	ンて総合的に して, 到達
授業の		・試験 評価で 目標に	より具(検の成績(する。学り 対する) ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	体的な未来ボ 60%,未来ポ 期末の成績は 達成度を試験	トフォリオを再度 トフォリオ20%, - 中間と期末の各期	作成する。 平素の学習状況等間の評価の平均と。	手(授業 する。 <u>‡</u>	レポート等)	20%の害つけるべ	合を基準とし き専門基礎と	ンて総合的に して, 到達
授業の □ アク:	ティブラーニ	・試験 評価で 目標に	より具(検の成績(する。学り 対する) ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	体的な未来ボ 60%,未来ポ 期末の成績は 達成度を試験	トフォリオを再度 トフォリオ20%, - 中間と期末の各期	作成する。 平素の学習状況等間の評価の平均と。	手(授業 する。 <u>‡</u>	レポート等)	20%の害つけるべ	合を基準とし き専門基礎と	ンて総合的に して, 到達
授業の □ アク:	ティブラーニ	・試験評価で	より具(検の成績(する。学り 三対する) 	体的な未来ボ 60%,未来ポ 期末の成績は 達成度を試験 ICT 利用	トフォリオを再度 トフォリオ20%, - 中間と期末の各期	作成する。 平素の学習状況等間の評価の平均と。	手 (授業 する。 <u>打</u>	ンポート等) 技術者が身に	20%の害つけるべ	合を基準とし き専門基礎と	ンて総合的に して, 到達
授業の □ アク:	ティブラーニ	・試験評価では 日標に アング 週	より具体の成績(たる。学り) 対するい 分	体的な未来ボ 60%, 未来ポ 期末の成績は 達成度を試験 直ICT 利用	ートフォリオを再度 ートフォリオ20%, 中間と期末の各期 等において評価する	作成する。 平素の学習状況等間の評価の平均と。 ② 遠隔授業対応	を は で で で で で で で で で で で で で	ンポート等) 技術者が身に の到達目標	20%の害 つけるべる □ 実務編	合を基準としき専門基礎と	ノて総合的に して, 到達
受業の 〕 アク:	ティブラーニ	・試験評価で	より具(検の成績) おいま はいま はいま はいま はいま はいま はいま はいま はいま はいま は	体的な未来ボ 60%, 未来ポ 期末の成績は 達成度を試験 I ICT 利用 内容 ガイダンス・	トフォリオを再度 トフォリオ20%, - 中間と期末の各期	作成する。 平素の学習状況等間の評価の平均と。 ② 遠隔授業対応	道 道 道 で と 10年後 を 具体	ンポート等) 技術者が身に の到達目標 の自分の将 化できる。	20%の害 つけるべる 」 」 実務編 来像と、そ	合を基準としき専門基礎と	ノて総合的に して, 到達 員による授う
授業の □ アク:	ティブラーニ	・試験評価では 日標に アング 週	より具(歳の成績(する) がまままままままままままままままままままままままままままままままままままま	体的な未来ボ 60%, 未来ポ 期末の成績は 達成度を試験 I ICT 利用 内容 ガイダンスを 分の働く変を	ートフォリオを再度 ートフォリオ20%, 中間と期末の各期 等において評価する ・ 未来ポートフォリオ	作成する。 平素の学習状況等間の評価の平均と。 ② 遠隔授業対応	に 過ごと 10年後 を具体	ンポート等) 技術者が身に の到達目標 の自分の将	20%の害 つけるべる 」 」 実務編 来像と、そ	合を基準としき専門基礎と 全験のある教	ノて総合的に して, 到達 員による授:
授業の □ アク:	ティブラーニ	・試験評価できません。 ・試験 評価できません アング りょう りょう りょう りょう りょう はい	より具作 の成績学 である できます おいま できます おいま できます おいま できます といっこう という という という という という という という という という とい	体的な未来ボ 60%, 未来ポ 期末の成試験 連成度を試験 」ICT 利用 内容 ガイダンス・ 分の働く技術 の役割と技術	ートフォリオを再度 ートフォリオ20%, 中間と期末の各期 等において評価する 未来ポートフォリオ イメージする。	作成する。 平素の学習状況等間の評価の平均と。 ② 遠隔授業対応 一づくり:10年後	通ごと 10年後 生木の 社会基	ンポート等) 技術者が身に の自分の将 化できる。 役割と技術(盤施設(ダム	20%の害 つけるべる 実務 来像と、そ こついて説	合を基準としき専門基礎と 全験のある教	して、 到達 して、 到達 員による授: 学習ステップ
受業の 〕 アク:	ティブラー:	・試験 評目標(i) 多上の区 ニング 週 1週 2週 3週	より具様の成績学の表するが 授業業員 土木 木	体的な未来ボ 60%, 未来ポ 期末の成績は 達成度を試験 I ICT 利用 内容 ガクの働くと技術 構造物の種類	ートフォリオを再度 ートフォリオ20%, 中間と期末の各期 等において評価する ネ来ポートフォリオ イメージする。 について理解する。 と工法について理解	作成する。 平素の学習状況等間の評価の平均と。 ② 遠隔授業対応 づくり:10年後	ででである。 対 過ごと 10年後本 土木の 社会に 社会に 10年 基本 に 対 は 10年 単本 に 対 は 10年	ンポート等) 技術者が身に の到達目標 の自分の将 化できる。 役割と技術(盤施設(ダム いて説明でき	20%の害ごつけるべる 実務経 来像と、そ こついて説 「橋梁、ト	合を基準としき専門基礎と 全様のある教	して、 対 員による授 学習ステップ
受業の 〕 アク:	ティブラーニ	・試験評価では、	より具様の成績学の表するが 授業業員 土木 木	体的な未来ボ 60%, 未来ポ 期末の成績は 達成度を試験 I ICT 利用 内容 ガクの働くと技術 構造物の種類	ートフォリオを再度 ートフォリオ20%, 中間と期末の各期 等において評価する 未来ポートフォリオ イメージする。 について理解する。	作成する。 平素の学習状況等間の評価の平均と。 ② 遠隔授業対応 づくり:10年後	ででである。 注 週ごと 後本 大会に 加、川 は、川	ンポート等) 技術者が身に の到達目標 の自分の将 化できる。 役割と技術(盤施設(ダム いて説明でき	20%の害ごつけるべる 実務経 来像と、そ こついて説 「橋梁、ト	合を基準としき専門基礎と <u>全</u> ないできる。	して、 対 員による授 学習ステップ
受業の 〕 アク:	ティブラー:	・試験 評目標(i) 多上の区 ニング 週 1週 2週 3週	より損債がある。対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対	体的な未来ボ 60%,未来ポ 50%,未来ポ 期末の成試験: 国 ICT 利用 内容 ガ分の働く技術 構造物の種類 構造物の種類	ートフォリオを再度 ートフォリオ20%, 中間と期末の各期 等において評価する ネ来ポートフォリオ イメージする。 について理解する。 と工法について理解	作成する。 平素の学習状況等間の評価の平均と。 ② 遠隔授業対応 づくり:10年後 でする。	ででである。 対 で で で で で で で で で で で で で で で で で で	の到達目標の自分の記述を の自分の名のできる。 の割と技術(と変をしていてのできる。) の割と技術(と変をしていてのできる。) できる。	20%の害 つけるべる 実務経 来像と、そ こついて説 橋梁、上 る。 施工管理	合を基準としき専門基礎と 全様のある教	して、 対 員による授 学習ステップ
受業の 〕 アク:	ティブラー:	・試験 ・評価で 多上の区 ニング 週 1週 2週 3週 4週	より具績学の成のである。対している。如うないないない。如これにないない。如うないないない。如これにないる。如うないないないない。如これないない。如いないないない。如これないない。如これないないない。如これないない。如これないない。如これないない。如これないない。如これないないない。如これないない。如これないない。如これないない。如これないない。如これないない。如これないない。如これない。如これないない。如これないないない。如これないない。如これないない。如これないない。如これないない。如これないない。如これないない。如これないない。如これないない。如これないない。如これないない。如これないない。如これないない。如これないない。如これないないない。如これないない。如これないないない。如これないない。如これないないない。如これないないないない。如これないないないない。如これないないないない。	体的な未来ボ 50%,未来ポ 50%,未来ポ 期末の成素は 達成度を試験 」ICT 利用 内容 ガクの働と技術 構造物の種類 物の役割と技	ートフォリオを再度 ートフォリオ20%, 中間と期末の各期 等において評価する ネ来ポートフォリオ イメージする。 について理解する。 と工法について理解 と工法, 施工管理に	作成する。 平素の学習状況等間の評価の平均と。 ② 遠隔授業対応 づくり:10年後 でする。 ついて理解する	選 (授業) 10年 (10年) 10年 (10年) 10年 (10年) 11年 (10年	の到達目標の の可自分ののでき と技術で とないて説明でき 、海のる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 できる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 のので。 ののできる。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 のので。 のので	20%の書 □ 実務 来像と、そ こついて説 橋梁、 I 参る。 施工管理 特について	合を基準としき専門基礎と 登験のある教	して、到達して、到達員による授
受業の 〕 アク:	ティブラー:	・試価で 多上の区 コング 週 1週 2週 3週 4週 5週	より横の成。するが大力を持ちています。 との	体的な未来ボ 50%, 未来ポ 50%, 未来ポ 50%, 未来ポ 150%, 未積は験 1	ートフォリオを再度 ートフォリオ20%, 中間と期末の各期 等において評価する オメージする。 について理解する。 と工法について理解 と工法, 施工管理に 術について理解する	作成する。 平素の学習状況等間の評価の平均と。 ② 遠隔授業対応 づくり:10年後 ごついて理解する	選 (授 (授 る。) 1 (の到達目標の の可自分ののでき と技術で とないて説明でき 、海のる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 できる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 のので。 ののできる。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 のので。 のので	20%の書 □ 実務 来像と、そ こついて説 「橋梁、」 ・ を 施工管理 おについて またこのいて まる。	合を基準としき専門基礎と 基験のある教 これに向けたき いっきる。 こンネルなど 、入札・契約 説明できる。 説明できる。	して、到達して、到達員による授 学習ステップ
受業の □ アク: 受業計	ティブラー:	・評目標 多上グ 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	より 横のの。するが 一	体的な未来ボ 50%, 未来ポ 50%, 未来ポ 150%, 未来ポ 150%, 未積は 150% 150% 150% 150% 150% 150% 150% 150%	ートフォリオを再度 ートフォリオ20%, 中間と期末の各期 等において評価する オメージする。 について理解する。 と工法について理解 と工法, 施工管理に 術について理解する 法について理解する	作成する。 平素の学習状況等間の評価の平均と。 ② 遠隔授業対応 づくり:10年後 こついて理解する 。。 る。 る。 る。	ででする。 対	の到達目標のの自然では、 の到達目標のの自分の。 の自分の。 の自分の。 の自然で説明する。 がで割と技術の ない、海のる。 の役割と技術の ののできる。 ののでき。 ののできる。 のので。 のので。 のので。 のので。 のので。 のでで。 のでで。 のでで。 のでで。 のでで。 のでで。 のでで。 のでで。 のでで。 のでで。 のでで。 のでで。 のでで。 のでで。 のでで。	20%の書 つけるべ。 実務経 来像と、そ こついて説 「橋梁、」 施工管理 版について まについて まについて まで説明	合を基準としき専門基礎と 基験のある教 これに向けたき いっきる。 こンネルなど 、入札・契約 説明できる。 説明できる。	して、到達して、到達員による授 学習ステッコの種類とコロ制度につい
受業の □ アク: 受業計	ティブラー:	・評目標 多上グ 週 1週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	より成。する	体的な未来ポポポポポポポポポポポポポポポポポポポポポポポポポポポポポポポポポポポポ	ートフォリオを再度 ートフォリオ20%, 中間と期末の各期 等において評価する 未来ポートフォリオイメージする。 について理解する。 と工法について理解 と工法, 施工管理に 術について理解する 法について理解する 技術について理解する	作成する。 平素の学習状況等間の評価の平均と。 ② 遠隔授業対応 つくり:10年後 こついて理解する。	選り できます できます できます できます できます できます できます できます	の到達目標のののできません。 の到達目のののできませんで、あるのできませんでできませんでである。 がでからない、できないできませんでは、できないできませんでは、できないできませんでは、できないできないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないできないできないできないできないできないできないできないできないできない	20%の書 つけるべる 実務経 来像と、そ こついて 橋梁、 ・ あ。 施工管理 特について まについて まがでも までいて まがでする。	合を基準としき専門基礎と 全称に向けたき のできる。 、入札・契約 説明できる。 ごきる。 ごきる。	して、到達 して、到達
受業の □ アク: 受業計	ティブラー:	・評目 ボード	よめる対 分 授 授の 土 土 土。 建 建 建 防 防す	体的な未来では 50%,の成を 大来来は 50%,の成を を 1にT 利用 内容 イクの役割 大ので を イクの役割 といる できる から できる から できる から から はい かっかい といる できる はい かい かい かい できる はい かい できる はい かい できる はい いい	ートフォリオを再度 ートフォリオ20%, 中間と期末の各期 等において評価する。 未来ポートフォリオ イメージする。 について理解する。 と工法について理解する と工法, 施工管理に 術について理解する 技術について理解する 会社の仕事について コンサルタントの仕	作成する。 平素の学習状況等間の平均と。 「図」遠隔授業対応 でつくり:10年後 でする。 こついて理解する。 理解する。 事について理解	選 10を主 社法山て建建建 10で 10で 11で 11で 11で 11で 11で 11で 11で 11で	の到達目標の ののでは の一のでは ので ので ので ので ので ので ので ので ので ので ので ので ので	20%の書 つけるべる 実務経 来像と、そ こついて 橋本。管理 特について 技術を仕事 コンサルタ	合を基準としき専門基礎と 全体に向けた等性に向けた等性を 明できる。 、入札・契約を 説明できる。 できる。	して、到達 して、到達 員による授 学習ステップ の種類とエ 可制度につい 目できる。 こついて説明
受業の 〕 <i>アク</i> : 受業計	ティブラー:	・評目 ・評目 ・	よめる対 分 授 授の 土 土 土。 建 建 建 防 防す 防 関	体的な未来では (50%)の	ートフォリオ20%,中間と期末の各期等において評価する。 未来ポートする。 について理解する。 と工法について理解 と工法,施工管理に 術について理解する 法について理解する 法について理解する 法について理解する 大術について理解する 会社の仕事について 員の仕事について理	作成する。 平素の学習状況等間の平均と。 「図」遠隔授業対応 でつくり:10年後 でする。 こついて理解する。 理解する。 事について理解	でする。 週 10を 土 社法 山て 建 建 建 防 防で 防 で 防 で 防 で 防 で 防 で 防 で 防 で	の到達目標 (将され) がままれる。 ののできまながのできまながのできまながのできまながのできまながです。 のの種類とでは、でのの種類とでは、でのの種類とでは、でのの種類とでは、でのの種類とでは、でののでは、できまれる。 という でんしょう はいい かいしょう はいい はい	20%の書 つけるべる 実務総 来像と、そ こついて説 ・ 橋このいて ・ たる。 施工管理 ・ だこのいて ・ 技術を説明 ・ 会社の仕事 こつかせ事 こつがする。	合を基準としき専門基礎と 本版のある教	して、到達 はて、到達 はて、到達 はなる授う はなるできる。 になるできる。 について説明
受業の 〕 アク: 受業計	ティブラー:	・評目 ボード	よ 競の 5 対	体的な未来では50%,の成を 大きな	ートフォリオを再度 ートフォリオ20%, 中間と期末の各期 等において評価する 未来ポートフォリオイメージする。 について理解する。 と工法について理解する。 と工法, 施工管理に 術について理解する 技術について理解する 大力の仕事について理解する はないで理解する。	作成する。 平素の学習状況等間の平均と。 「図」遠隔授業対応 でつくり:10年後 でする。 こついて理解する。 理解する。 事について理解	選 10年具 木会に , 説 築 築 築 災 災き 災 史 と 後体 の 基つ 川明 物 物 に に にる に と	の到達量標等に の到達分のの化役盤に の到達分のる。 投盤に のの化力を表する。 のののできればいでで、 ののできればいでで、 ののできればいでで、 ののできればいでで、 ののできればいでで、 ののできればいでで、 ののできればいでで、 ののできればいでで、 ののできればいで、 ののできればいで、 ののできればいで、 ののできればいで、 のののできればいで、 のののできればいで、 のののできればいで、 のののできればいで、 ののでできればいで、 ののでできればいで、 ののでできればいで、 ののでできればいで、 ののでできればいで、 ののでできればいで、 ののでできればいで、 ののでできればいで、 ののでできればいで、 ののでできればいで、 ののでできればいで、 ののでできればいで、 ののででできればいで、 ののでできればいで、 ののでできればいで、 ののでできればいで、 ののでできればいで、 ののでできればいで、 ののでできればいで、 ののでできればいで、 ののでできればいで、 ののでででででででででででででででででででででででででででででででででで	20%の書 つけるべる 実務 来像と、そ こつにで説 橋る。 下では、一 を表して説 はたこのいて はたについて またでも、 はなの仕事に ながれる。 ないで説 について はたについて またでも、 ないでも、 な	Incela を基準としき専門基礎と ・特別のある教 ・中に向けたものできる。 ・ハス札・契約 ・説明できる。 ・できる。 ・できる。 ・できる。 ・できる。 ・できる。 ・できる。 ・できる。 ・できる。 ・できる。 ・できる。 ・できる。 ・できる。 ・できる。 ・できる。 ・できる。 ・できる。	して、到達 はて、到達 はて、到達 学習ステップ の種類とエロ制度につい 可できる。 こついて説明
受業の □ アク: 受業計	更 IstQ	・評目 ボード ・	よ 競の 3 対	体的な未来では 50% の 70% を 70%	ートフォリオを再度 ートフォリオ20%, 中間と期末の各期 等において評価する。 について理解する。 と工法について理解する。 と工法、施工管理に 術について理解する 技術について理解する 技術について理解する 大型の仕事について理解する はでないで理解する。 はいて理解する。 はいて理解する。 はいて理解する。 はいて理解する。 について理解する。	作成する。 平素の学習状況等間の評価の平均と。 ② 遠隔授業対応 づくり:10年後 でする。 こついて理解する。 理解する。 事について理解 解する。	選 10年具 木会に , 説築築築 災ぎ 災 史築 業 1 と 後体 の 基つ 川明 物 物 に に にる に とを	の到達量分のるは 一大術者が身に の到達量分のると技術の のできと技術のです。 かのできるとはがいた。 ののののできるとはできる。 でのの類すするるとない。できる建設に 関すするるとない。 でののの類すする。 のののできるとはできる。 ののののできるとはできる。 でのののできるとはできる。 でのののできるとはできる。 でのののできるとはできる。 でのののできるというできる。 でのののできるというできる。 でのののできるというできる。 でのののできるというできる。 でのののできるというできる。 でのののできるというできる。 でのののできるというできる。 でのののできるというできる。 でのののできるというできる。 でのののできるというできる。 でのののできるというできる。 でのののできるというできる。 でのののできるというできる。 でののできるというできる。 でのののできるというできる。 でののできるというできる。 でののできるというできる。 でののできるというできる。 でののできるというできる。 でののできるというできる。 でののできるというできる。 でののできるというできる。 でののできるというできる。 でののできるというできる。 でののできるというできる。 でのできるというできる。 でのできるというできる。 でのできるというできる。 でいるできるというできる。 でいるできるというできる。 でいるできるというできる。 でいるできるというできる。 でいるできるというできる。 でいるできるというできる。 でいるできるというできる。 でいるできるというできる。 でいるできるというできる。 でいるできるというできる。 でいるでいるできる。 でいるできる。 でいるできる。 でいるできる。 でいるできる。 でいるできる。 でいるできる。 でいるできる。 でいるできる。 でいるできる。 でいるでいるできる。 でいるできる。 でいるできる。 でいるでいるでいるできる。 でいるでいるできる。 でいるできる。 でいるできる。 でいるではない。 でいるでいるではない。 でいるではないない。 でいるではないない。 でいるではないないないないない。 でいるではないないないないないないないないないないないないない。 でいるではないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	20%の書 つけるべ 実務 来像と、そ こつに変 点。 「一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、	Incesを基準としき専門基礎と ・特別を表現のある教 ・中に向けたものできる。 ・ハンネルなどが ・ハンネルなどが ・ハンネルなどが ・ハンネルなどが ・ハンネルなどが ・ハンネルなどが ・ハンネルなどが ・ハンネルなどが ・ハンネルなどが ・ハンネルなどが ・ハンネルなどが ・ハン・フいて説明できる。 ・ロン・の仕事に ・ロン・のできる。 ・ロン・のできる。 ・ロン・のできる。 ・ロン・のできる。 ・ロン・のできる。	して、到達 員による授 学習ステップ の種類とエ 可制度につい 可できる。 こついて説明 できる。
授業の □ アク・ 授業計	ティブラー:	・評目 ボード	よ 競の 3 対	体的%、赤のをを が が に に に と を ・ 地 な 表 来 来 は 験 に に と を ・ 地 な で の の 関 り す す こ く と を ・ 地 な を ・ 地 な を ・ 地 な を ・ 地 な を ・ 地 な を ・ 地 な を ・ 地 な で の と の の と の の と の と と で ・ 地 な で の の 関 り す の の と と で ・ 地 な で か 関 り す の の と と と で ・ 地 な で か 関 事 画 ・ ・ を 術 類 類 ・ を ・ 地 な を ・ 地 な で か 関 事 画 ・ ・ を 術 数 の の と い か の の り の の り の の り の の り の の り の の り の り の の り り の り り の り り の り り の り り の り り の り り の り り の り り の り り の り り の り り の り り り す す ら い り の り り り す す ら い り り り り り り り り り り り り り り り り り り	ートフォリオを再度 ートフォリオ20%, 中間と期末の各期 等において評価する 未来ポートフォリオイメージする。 について理解する。 と工法について理解する。 と工法, 施工管理に 術について理解する 技術について理解する 大力の仕事について理解する はないで理解する。	作成する。 平素の学習状況等間の平均と。 図 遠隔授業対応 でくり:10年後 でする。 こついて理解する。 理解する。 理解する。 理解する。	です 週 10を土 社法山て建建 財防で 防歴 建 都 授る。 ご 4年具 木 会に , 説築 築 築 災 災き 災 史 築 市 業 1 と 後体 の 基つ 川明 物 物 に に にる に とを・ 内	のの化役盤い、でのの関関関。関明つ地容のの投資とは、「でのの関関関。関明の地容を対して、「でのの関関関。関明の地容を対して、「でのの関関を対して、「でのの関関を対して、「でのの関関を対して、「でのの関関を対して、「でのの関関を対して、「でのの関関を対して、「でのの関関を対して、「でのの関関を対して、「での関係を対して、、「での関係を対して、、「での関係を対して、、「での関係を対して、、「での関係を対して、、「での関係を対して、、「でのの関係を対して、、」では、「でのの関係を対して、、「でのの関係を対して、、」では、「でのの関係を対して、、「でのの関係を対して、、「でのの関係を対して、、」では、「でのの関係を対して、、」では、「でのの関係を対して、、」には、、「でのの関係を対して、、」には、、「でのの関係を対して、、」には、、、「でのの関係を対して、、」には、、「でのの関係を対して、、」には、、、「でのの関係を対して、、」には、、、「でののでは、、」には、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	20%の書	Incela を基準としき専門基礎と ・特別のある教 ・中に向けたものできる。 ・ハス札・契約 ・説明できる。 ・できる。 ・できる。 ・できる。 ・できる。 ・できる。 ・できる。 ・できる。 ・できる。 ・できる。 ・できる。 ・できる。 ・できる。 ・できる。 ・できる。 ・できる。 ・できる。	して、
授業の □ アク: 授業計	更 IstQ	・評目 の区 ・評目 の区 ・評目 の区 ・評目 の区 ・ 週 1週 週 3週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週	よめる対	体的%、50%、50%、50%、50%、50%、50%、50%、50%、50%、50	ートフォリオを再度 ートフォリオ20%,中間と期末の各期等において評価する。 未来ポートする。 について理解する。 と工法、施工管理に 術について理解する 法について理解する 法はの仕事について理解する 会社の仕事について理解 係性を理解する。 について理解する。 について理解する。	作成する。 平素の学習状況等間の平均と。 「図」遠隔授業対応 でつくり:10年後 でする。 こついて理解する。 こっまる。 理解する。 理解する。 は解する。 はアート2	です 週 10を土 社法 山て 建建 建 防 防で 防 歴 建 都 授テ 自授る。 ご 年具 木 会に ,説 築 築 築 災 災き 災 史 築 市 業ッ分業 : と 後体 の 基つ 川明 物 物 に に にる に とを ・ 内プ の	のの化役盤い,でのの関関関。関明つ、地容をより、でのの関関関連、関明の地容をは、でのの関関関連、関明の地容をは、でのの関関関連、関明の地容をは、のの関連をは、対では、でのの関関をは、対では、でのの関関をは、対では、対域を対し、対域を対し、対域を対し、対域を対し、対域を対し、対域を対し、対域を対し、対域を対し、対域を対し、対域を対し、対域を対し、対域を対し、対域を対域を対し、対域を対域を対し、対域を対域を対域を対域を対域を対域を対域を対域を対域を対域を対域を対域を対域を対	20%の書ででは、 で 実務 を と、 で	Incesを基準としき専門基礎と 主専門基礎と 主専門基礎と これに向けたき に明できる。 にカルなど 、入札・契終 説明できる。 について説明できる。 について説明できる。 について説明できる。 について説明できる。 でのいて説明できる。 でのいて説明できる。 でのいて説明できる。	して、到達 して、到達 算による授 学習ステップ の種類とエ の制度につい できる。 こついて説明 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。
授業の □ アク: 授業計	更 IstQ	・評目 の区 1 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週	よめる対	体的%、50%、50%、50%、50%、50%、50%、50%、50%、50%、50	ートフォリオを再度 ートフォリオ20%,中間と期末の各期等において評価する。 未来ポートする。について理解する。と工法、施工管理に 術について理解する法について理解する法について理解する法について理解する会社の仕事について理解する。はついて理解する。について理解する。について理解する。について理解する。	作成する。 平素の学習状況等間の平均と。 「図」遠隔授業対応 でつくり:10年後 でする。 こついて理解する。 こっまる。 理解する。 理解する。 は解する。 はアート2	です 週 10を土 社法山て建建 建防防で防歴 建 都 授テ授る。 ご 年具 木 会に , 説 築 築 築 災 災き 災 史 築 市 業 ツ 業 1 と 後体 の 基つ 川明 物 物 に に にる に とを・・ 内プ	のの化役盤い,でのの関関関。関明つ、地容をより、でのの関関関連、関明の地容をは、でのの関関関連、関明の地容をは、でのの関関関連、関明のも、は、でのの関関を関係がある。とのは、対域を強い、でのの関関を表	20%の書ででは、 で 実務 を と、 で	はき専門基礎と ・専門基礎と ・事門基礎と ・和に向けたも ・明できる。 ・ハンネルなど。 ・ハンネルなど。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	して、到達 では、 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。
授業の □ アク: 授業計 前期	アィブラー: 画 1stQ 2ndQ	・評目 F F F F F F F F F	よめる対	体60%の65期達 「 内ガ分の 構 構 物物ににに。にとを・ 返 ジース・スタ技 種 種 技工境設 関 す在く域・・ ト・を術 類 類 技工境設設 務関事画 ポ 研 研 の の の の の の の の の の の の の の の の の	ートフォリオ20%, 中間と対すりまで、 ・中間と対すが、 ・中間といてにおいてには、 ・中間といてでは、 ・トナリオの名。 ・トナリオのといいでは、 ・大メートをは、 ・トリカスでは、 ・大メートをは、 ・トリカスでは、 ・大メートをは、 ・トリカスでは、 ・大メートをは、 ・大メートをは、 ・大・カートのは、 ・大が、このいて、 ・大が、このいて、 ・大が、このいでは、 ・大が、このいでは、 ・大が、このいでは、 ・大が、このは、 ・大が、 ・大が、 ・大が、 ・大が、 ・大が、 ・大が、 ・大が、 ・大が	作成する。 平素の学習状況等間の平均と。 「図」遠隔授業対応 でつくり:10年後 でする。 こついて理解する。 こっまる。 理解する。 理解する。 は解する。 はアート2	です 週 10を土 社法 山て 建建 建 防 防で 防 歴 建 都 授テ 自授る。 ご 年具 木 会に ,説 築 築 築 災 災き 災 史 築 市 業ッ分業 : と 後体 の 基つ 川明 物 物 に に にる に とを ・ 内プ の	のの化役盤い,でのの関関関。関明つ、地容をより、でのの関関関連、関明の地容をは、でのの関関関連、関明の地容をは、でのの関関関連、関明のも、は、でのの関関を関係がある。とのは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般で	20%の書ででは、 で 実務 を と、 で	はき専門基礎と ・専門基礎と ・事門基礎と ・和に向けたも ・明できる。 ・ハンネルなど。 ・ハンネルなど。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	して、到達 では、 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。
授業の (ファク: 授業計 前期	アィブラー: 画 1stQ 2ndQ	・評目 の 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 13 10 15 10 16 10 17 10 18 10 19 10 10 <td< td=""><td>よめる対 分 授授の土土土・建建建防防す防歴建都 試 プ 学具績学る 業業自木 木 木 築築築築災災る災史築市 験 口 習</td><td>体50%の が50%の が50%の が50%の が50%の が50%の が50%の が50%の が50%の が50%の が50%の が50%の で50%の で60%の で60%の で60%の で60%の で70%の で60%の で70%の</td><td>ートフォリオ20%, 中間と対象のでは、 ・中間と対象のでは、 ・中間と対象のでは、 ・中間と対象のでは、 ・中間と対象ででは、 ・中間と対象ででは、 ・中間と対象では、 ・中に、 ・中に、 ・中に、 ・中に、 ・中に、 ・中に、 ・中に、 ・中に</td><td>作成する。 平素の学習状況等間の平均と。 「図」遠隔授業対応 でつくり:10年後 でする。 こついて理解する。 こっまででは、 はいて理解する。 はいて理解する。 はいて理解 にいて理解 にいて理解 にいて理解 はいて理解 はいて理解</td><td>です 週 10を土 社法 山て 建建 建 防 防で 防 歴 建 都 授テ 自授る。 ご 年具 木 会に ,説 築 築 築 災 災き 災 史 築 市 業ッ分業 : と 後体 の 基つ 川明 物 物 に に にる に とを ・ 内プ の</td><td>のの化役盤い,でのの関関関。関明つ、地容をより、でのの関関関連、関明の地容をは、でのの関関関連、関明の地容をは、でのの関関関連、関明のも、は、でのの関関を関係がある。とのは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般で</td><td>20%の書ででは、 で 実務 を と、 で</td><td>はき専門基礎と ・関ルとはき専門基礎と ・関ルンネル・契約 ・説明できる。 ・について説明さる。 ・について説できる。 ・について説できる。 ・について説できる。 ・について説できる。 ・について説できる。 ・について説できる。 ・についていまる。 ・についていまする。 ・についていまする。 ・についていまする。 ・についていまする。 ・についていまする。 ・についていまする。 ・についていまする。 ・についていまする。 ・についていまする。 ・についていまする。 ・についていまする。 ・についていまする。 ・についたいまする。 ・についたいまする。 ・についたいまする。 ・についたいまする。 ・についたいまする。 ・についたいまする。 ・についたいまする。 ・についたいまする。 ・についまなる。 ・についなる。 ・にしいな。 ・にしいなる。 ・にしいなる。 ・にしいなる。 ・にしいなる。 ・にしなな。 ・にしなな。 ・にしななな。</td><td>して、 到達 による授 学習ステップ の種類 とエ 可制度 につい できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。</td></td<>	よめる対 分 授授の土土土・建建建防防す防歴建都 試 プ 学具績学る 業業自木 木 木 築築築築災災る災史築市 験 口 習	体50%の が50%の が50%の が50%の が50%の が50%の が50%の が50%の が50%の が50%の が50%の が50%の で50%の で60%の で60%の で60%の で60%の で70%の で60%の で70%の	ートフォリオ20%, 中間と対象のでは、 ・中間と対象のでは、 ・中間と対象のでは、 ・中間と対象のでは、 ・中間と対象ででは、 ・中間と対象ででは、 ・中間と対象では、 ・中に、 ・中に、 ・中に、 ・中に、 ・中に、 ・中に、 ・中に、 ・中に	作成する。 平素の学習状況等間の平均と。 「図」遠隔授業対応 でつくり:10年後 でする。 こついて理解する。 こっまででは、 はいて理解する。 はいて理解する。 はいて理解 にいて理解 にいて理解 にいて理解 はいて理解	です 週 10を土 社法 山て 建建 建 防 防で 防 歴 建 都 授テ 自授る。 ご 年具 木 会に ,説 築 築 築 災 災き 災 史 築 市 業ッ分業 : と 後体 の 基つ 川明 物 物 に に にる に とを ・ 内プ の	のの化役盤い,でのの関関関。関明つ、地容をより、でのの関関関連、関明の地容をは、でのの関関関連、関明の地容をは、でのの関関関連、関明のも、は、でのの関関を関係がある。とのは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般で	20%の書ででは、 で 実務 を と、 で	はき専門基礎と ・関ルとはき専門基礎と ・関ルンネル・契約 ・説明できる。 ・について説明さる。 ・について説できる。 ・について説できる。 ・について説できる。 ・について説できる。 ・について説できる。 ・について説できる。 ・についていまる。 ・についていまする。 ・についていまする。 ・についていまする。 ・についていまする。 ・についていまする。 ・についていまする。 ・についていまする。 ・についていまする。 ・についていまする。 ・についていまする。 ・についていまする。 ・についていまする。 ・についたいまする。 ・についたいまする。 ・についたいまする。 ・についたいまする。 ・についたいまする。 ・についたいまする。 ・についたいまする。 ・についたいまする。 ・についまなる。 ・についなる。 ・にしいな。 ・にしいなる。 ・にしいなる。 ・にしいなる。 ・にしいなる。 ・にしなな。 ・にしなな。 ・にしななな。	して、 到達 による授 学習ステップ の種類 とエ 可制度 につい できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。
□ アクラー ファクラー 授業計 前期	アイブラー: 画 1stQ 2ndQ	・評目 トグ 週週週週週週週週月 月週週週週月 11月月 10月月 11月月 11月月 11月月 11月日 11月月 11月月 11月日 11月月	よめる対 分 授授の土土土・建建建防防す防歴建都 試 プ 学具績学る 業業自木 木 木 築築築築災災る災史築市 験 口 習	体60%の65期達 「 内ガ分の 構 構 物物ににに。にとを・ 返 ジース・スタ技 種 種 技工境設 関 す在く域・・ ト・を術 類 類 技工境設設 務関事画 ポ 研 研 の の の の の の の の の の の の の の の の の	ートフォリオ20%, 中間と対すりまで、 ・中間と対すが、 ・中間といてにおいてには、 ・中間といてでは、 ・トナリオの名。 ・トナリオのといいでは、 ・大メートをは、 ・トリカスでは、 ・大メートをは、 ・トリカスでは、 ・大メートをは、 ・トリカスでは、 ・大メートをは、 ・大メートをは、 ・大・カートのは、 ・大が、このいて、 ・大が、このいて、 ・大が、このいでは、 ・大が、このいでは、 ・大が、このいでは、 ・大が、このは、 ・大が、 ・大が、 ・大が、 ・大が、 ・大が、 ・大が、 ・大が、 ・大が	作成する。 平素の学習状況等間の平均と。 「図」遠隔授業対応でする。 「でくり:10年後でする。 「でしいて理解する。」 「理解する。」 「理解する。」 「理解する。」 「理解する。」 「課題である。」 「課題発表会)	選 10を土社法山て 建建 建 防 防で 防 歴 建 都 授テ 自き 受る。 ご 年具 木 会に ,説 築 築 築 災 災き 災 史 築 市 業ッ 分る 業 1 と 後体 の 基つ 川明 物 物 に に にる に と を ・ 内ブ の。	のの化役離い、でのの関関関。関現つ地容を興味のので割ります。 大塚 一型 自って割り でのの関 関関のでは 一型 はいいでのの関 関 関 のの はいのでは 一切の とと できる はいる はい でん いい はい	20%の書で、2	はき専門基礎と ・専門基礎と ・事門基礎と ・和に向けたも ・明できる。 ・ハンネルなど。 ・ハンネルなど。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	して、到達 では、 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。

				風景	 、景観と景観要素について、	 説明できる。	1	前11,前12
	建築系分野				<u>の</u> 意義と計画学の考え方を説		1	前5
			材料	建築材料の変遷や発展について説明できる。			1	前7
					の種類について説明できる。		1	1
					構造(W造、RC造、S造、SRC		2	
			構造		造の特徴・構造形式について		1	前6
				居住		に合住宅など)の計画について記		前13
				建築計画・設計の手法一般について説明できる。				
		計画・歴史	都市と農村の計画について説明できる。			1		
				日本および海外における近現代の建築様式の特徴について説明できる。			^ت 1	前7
				建築	= 建築物などの定義について説明できる。			
			施工・法規	て東の済わ/仮訳、進牒、甘醂、地業、飯は、は上げ、乳牒/電生			2	
				建築	物の保守・維持管理の概要・	現状について説明できる。	1	
			設計・製図	与えられた条件をもとに、コンセプトがまとめられる。			1	
				目標の実現に向けて計画ができる。			3	
	態度・志向 性(人間力)	態度・志向性		目標の実現に向けて自らを律して行動できる。			2	
			態度・志向性	日常の生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。			³ 2	
				自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。			2	
				その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状で必要な学習や活動を考えることができる。			, ¹ 2	
				キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。			忍 2	
				これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。			2	
分野横断的 能力				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でどの ように活用・応用されるかを説明できる。			^か 2	
ودورا				企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。			1	
				社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。			^哉 1	
				技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。			^要 1	
				技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動 を行った事例を挙げることができる。			^助 1	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。			⁻ 1	
				企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることがで きる。			- 1	
				コミ能力	コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき 能力」の必要性を認識している。			
評価割合								
試験					ポートフォリオ	授業レポート	合計	
総合評価割合 60					20	20	100	
基礎的能力 20					5	5	30	
専門的能力 20			0		10	10	40	
分野横断的能力 20		20	0		5	5	30	